「真っ直ぐなものの見方」

島根県　松源寺（しょうげんじ）　住職　佐瀬（させ）　宏洋（こうよう）

私の父でもある師匠は、九十一歳になります。師匠は農家の次男で、小さいころから仏教に興味を持ち、近くのお寺の坐禅会に参加していたそうです。師匠は十六歳の時に親元を離れ上京し、仕事をしていましたが仏縁に導かれて出家しました。とにかく坐禅が好きで、人一倍坐る機会を求めていました。そして、縁あってこの安来のお寺に入り、日々作務や托鉢、寺報の作成、そして青少年育成の子どもの合宿と、毎日を全力で修行していました。今の私にはとても真似のできない行動力の持ち主でした。

その師匠が、頼まれて住職をしていた静岡のお寺から、十三年ぶりに帰ってきました。久しぶりにお風呂で師匠の背中を流した時に気づいたのが、背骨の歪みでした。坐禅中の師匠の姿を後ろから見ていますと、背骨の歪みから姿勢が右に偏っていて、倒れるのではないかと心配でした。坐禅が終わってから、師匠に直してほしい気持ちもあり「背中が曲がっていましたよ」と伝えました。

しかし、そのことを、あらためて素直な心で見た時に、師匠の曲がった背中こそ、今の師匠の「真っすぐな姿」だと気づきました。師匠の背中に、仏教の教えである「正見（しょうけん）」の本質、「正しいものの見方をする、先入観を捨てて、ありのままを見る」という教えに気づかせていただきました。

現代では情報が溢れています。何が本当で何が嘘なのかが、非常に分かりづらい世の中になってしまいました。これからも時代とともに、あらゆるものの変化がどんどん進んでいくと思います。そんな中でも一度立ち止まる勇気を持ち、しっかりと呼吸を調え自分の目で確かめて歩みたいと思っています。「正見」（先入観を捨てて、ありのままを見る）という教えを心に焼き付け、日々精進していきたいものです。